

■小松原英太郎 官僚、政治家。過激民権派から官界入り、山県系官僚の代表的な一員として終った。

こまつばらえいたろう

万次郎帰国・1852＝ 備前国御野郡青江村(岡山市)の農業・侵問屋莊二の長男として生まる。

ペリー来航・1853＝ 1歳：

桜田門外変・1860＝ 8歳：

遣欧使節・・1861＝ 9歳：

薩長同盟・・1866＝14歳：叔父豊次の養子で藩黷の句読教師をしていた清蔵の周旋で、藩黷に出仕。

明治維新・・1868＝16歳：

初の日刊新聞1870＝18歳：

廃藩置県・・1871＝19歳：廃藩置県に伴う藩黷の改革で英仏語科ができ、英語を修める。

明治6年政変 1873＝21歳：

佐賀の乱・・1874＝22歳：友人数人と上京し、慶応義塾に入塾。\_ {曙新聞} への投書などで末広重恭(鉄腸)に認められ、

初の民間工場1875＝23歳：1年未満で退塾し、\_ その推薦で過激民権派の {評論新聞} に入り編輯長となる。

三つの反乱・1876＝24歳：\_ 同紙上に「**压制政府顧覆すべきの論**」を発表し新聞紙条例により禁獄2年に処せられ、

大久保暗殺・1878＝26歳：出獄。再び末広の周旋で {朝野新聞} に入るが

琉球処分・・1879＝27歳：郷里に帰り、 {山陽新報} の編輯長となる。

・・・・・1880＝28歳：\_ 同郷の先輩花房義質の推薦で、外務省御用掛となり官界に入る。

明治14年政変1881＝29歳：

秩父事件・・1884＝32歳：\_ 外務書記官として、ドイツ公使館在勤を命ぜられ、

\_ 在任中に地方自治制を研究し、

国民之友始・1887＝35歳：\* 帰国して、埼玉県知事となり、以後、山県有朋のもとで地方自治制制定に参画、

初の対等条約1888＝36歳：

帝国憲法発布1889＝37歳：

内務省警保局長、静岡・長崎県知事と内絡畑を歴任し、

日清戦争始・1894＝42歳：

八幡製鉄始・1897＝45歳：

子規句歌革新1898＝46歳：\* 第2次山県内閣の司法次官・内務次官(内務総務長官)となる。

ピアノ国産化・1900＝48歳：貴族院議員に勅選される。

日露戦争終・1905＝53歳：

満鉄発足・・1906＝54歳：

アヲキ創刊・1908＝56歳：\* 第2次桂太郎内閣の文部大臣に就任し、高等教育機関、特に高等学校・実業専門学校の拡充に努める。

大逆事件判決1911＝59歳：\* 内閣退陣後は、

明治天皇没・1912＝60歳：

\_ 貴族院の山県閥の中心として平田東助とともに側面から政治に干与して、

21ヶ条要求・1915＝63歳：

民本主義・・1916＝64歳：枢密顧問官となり、

ベルサイユ条約・1919＝67歳：\_ 病没した。